



あたらしく、知多らしく。

梅香る わたしたちの緑園都市

令和8年3月2日（月）
知多市報道発表資料

秘書広報課

担当：広報チーム 岡本

(0562-36-2642)

「広報ちた」が愛知県広報コンクールの 広報写真部門で特選、広報紙部門で入選を受賞

令和7年度愛知県広報コンクールにおいて、知多市民美術展を紹介する特集に合わせ彫刻と作者を撮影した広報ちた10月号の表紙が広報写真部門（組み写真）で特選、市内の多文化共生の現状を特集した広報ちた1月号が広報紙部門で入選に選ばれました。広報ちたが広報紙部門で入選したのは、5年連続です。

特選作品となった広報ちた10月号の表紙は、愛知県から令和8年全国広報コンクールへ推薦されます。

1 愛知県広報コンクールの概要

愛知県では、市町村の広報技術の向上を図るため、広報媒体として発行・発表した広報紙、広報写真、映像の3部門5区分の中から優秀な作品を選奨している。広報紙部門は記事の切り口の発想性、文章の表現力・読みやすさ、デザインなどを、広報写真部門は表現力や撮影の技術、レイアウトなどを評価している。

2 入賞作品と主な審査講評

広報ちた10月号 特選（応募点数：広報写真部門 31点（組み写真））

- ・作品と作者の2枚の写真を表紙とし、作品にいくつかのライトを用いて多方向から光を当てることで、より立体的に表現されている。作者は斜めから柔らかく光を当て陰影を作り出すことで、彫刻に没頭する姿が強調されている。写真のつなぎ目にうまくぼかしを入れて一体化させる工夫も素晴らしく、多くの人に美術展に行ってもらいたいという、撮影者の気持ちが強く伝わる写真になっている。

広報ちた1月号 入選（応募点数：広報紙部門 31点（市部））

- ・愛知県には工場が多く、外国人労働者なくしては成り立たないのが常識で、軋轢解消は大きな課題。関係団体の紹介では、見出しの横に団体の大まかな説明を載せ、読みやすさを考えたレイアウトとなっている。「やさしい日本語を使おう」というコーナーは外国人住民との距離を縮める工夫をしっかりと伝えている。
- ・在留外国人の存在が大きな問題として取り上げられる現在において、多文化共生の施策を正面から取り上げた特集企画は称賛に値する。「このまちで共に生きる」というタイトルは、課題に正面から向き合う市の高らかな宣言となっている。



▲広報ちた1月号（左）と10月号（右）